

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成22年1月7日 (2010.1.7)

【公表番号】特表2009-516654(P2009-516654A)

【公表日】平成21年4月23日 (2009.4.23)

【年通号数】公開・登録公報2009-016

【出願番号】特願2008-540237(P2008-540237)

【国際特許分類】

C 0 7 K 14/47 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 9/00 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

C 0 7 K 7/06 (2006.01)

C 0 7 K 7/08 (2006.01)

C 1 2 Q 1/02 (2006.01)

C 0 7 K 19/00 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 K 14/47 Z N A

A 6 1 K 37/02

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 9/00

A 6 1 P 29/00

C 0 7 K 7/06

C 0 7 K 7/08

C 1 2 Q 1/02

C 0 7 K 19/00

C 1 2 N 15/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成21年11月12日 (2009.11.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

8 ~ 39 のアミノ酸長のフラグメント、又はその変異型若しくはホモログであることを特徴とする抗血管新生 A ペプチドフラグメント。

【請求項 2】

フラグメントが、8、9、10、11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21、22、23、24、25、26、27、28、29、30、31、32、33、34、35、36、37、38又は39アミノ酸長であることを特徴とする、請求項 1 記載の抗血管新生 A ペプチドフラグメント。

【請求項 3】

フラグメントが、A₁₋₂₈、A₁₀₋₃₅、A₁₂₋₂₈又はA₁₃₋₂₀であることを特徴とする請求項1記載の抗血管新生Aペプチドフラグメント。

【請求項4】

フラグメントが、A₁₂₋₂₈であることを特徴とする請求項3記載の抗血管新生Aペプチドフラグメント。

【請求項5】

フラグメントが、A₁₃₋₂₀であることを特徴とする請求項1記載の抗血管新生Aペプチドフラグメント。

【請求項6】

A₁₂₋₂₈フラグメントが、アミノ酸配列HHQKL VFF又はその変異型若しくはホモログを含むことを特徴とする請求項5記載の抗血管新生Aペプチドフラグメント。

【請求項7】

A₁₃₋₂₀ペプチドフラグメントが、アミノ酸配列HHQKL VFF又はその変異型若しくはホモログであることを特徴とする請求項5記載の抗血管新生Aペプチドフラグメント。

【請求項8】

変異型又はホモログが、天然型Aペプチドフラグメントと約80.0%～約99.9%のアミノ酸同一性を示すことを特徴とする請求項1記載の抗血管新生Aペプチドフラグメント。

【請求項9】

変異型が、少なくとも一つのアミノ酸置換を含むことを特徴とする請求項1記載の抗血管新生Aペプチドフラグメント。

【請求項10】

アミノ酸置換が、非天然型アミノ酸又はアミノ酸アナログであることを特徴とする請求項9記載の抗血管新生Aペプチドフラグメント。

【請求項11】

リンカーをさらに含むことを特徴とする請求項1記載の抗血管新生Aペプチドフラグメント。

【請求項12】

フラグメントが、二番目のペプチド又はタンパク質と連結していることを特徴とする請求項1記載の抗血管新生Aペプチドフラグメント。

【請求項13】

請求項1～12いずれかに記載の抗血管新生Aペプチドフラグメント及び1又は複数の医薬的に許容される担体、希釈剤、又は賦形剤を含む医薬組成物。

【請求項14】

医薬組成物が、放出制御製剤であることを特徴とする請求項13記載の医薬組成物。

【請求項15】

放出制御製剤が、ポリマーマトリックスであることを特徴とする請求項14記載の医薬組成物。